

2022/3/23

(うと Q 世話し大切な人々) 書庫版



以下は全くの私見であり推測以外の何物でもない事をご承知おきの上お読み戴ければと思います。

当店のお客様でウクライナ出身の方が何人かいらっしゃいました。

ある超有名 IT 企業の先端インフォメーションテクノロジーのエンジニアで大方がベジタリアンかベーガンの方々でした。

当店ご来店時にはベジタリアン専用の野菜カリーを takeout されておりました。

その方々が例の国がウクライナに侵攻する一月ほど前に東京方面に纏まって引っ越され、漏れ伝え聞く処によれば戦う為に母国へ帰ったとの事でした。

しかし自分には是が「勇ましい話」にはどうしても思えませんでした。

何故なら皆さんインテリで体も細く物静かでもとても鉄砲を撃つ様には見えませんでしたし血の気が多い様にも見えなかったからです。

「なのに帰って行った」

のだとすると、それは「勇ましき」からではなく「自責の念」に駆られた部分もあるのではなかろうかと思いました。

国を守るというより

「残してきた家族や友人など大切な人達が大変な目に遭っている。それをメディアで見聞きしたのに見て見ぬ振り、聞いて聞かぬ振りはできない。

そんな自責の念に苦しむ位だったらいっそ弾に当たって命を落とした方が余程気が楽だ」  
と思ったのではなかろうかと。

そして何より

「残してきた家族や友人が苦しんだり傷ついたりする姿をこれ以上見ていられない」  
気持ち。

「鉄砲の打ち方は国に戻ってから教わればいい。取り敢えず国に帰ろう。ここでニュースを

見て落ち着かないよりはなんぼかましだ」

自分は今アジア系外国人と日々一緒に仕事をしたり話し合ったりしておりますが出身国や民族、文化は違って外国人の中には何かこういった感情が今の我々日本人より遥かに強く感じられます。

以前の記事で自分が最も大切にしているのは

「義理人情（之図）だ」

と書いて大顰蹙を買いましたが将にこの「古の日本人の専売特許の如き」義理人情を、むしろそれに欠けるドライな人間達とわが国では思われがちな彼らの中に感じております。

但しここでいう「義理人情（之図）」の意味はべとべとズルズルの暑苦しいものではなく「義理と人情を秤にかけりゃ義理が重たい世の中だ」という際の重苦しさや堅苦しさでもなくもっと科学的な見方を指しております。

つまり

「人という身体を軸にした天秤計（ばかり）」

「左に義（正しい事）と理（ことわり）の皿が各一計二つ」

「右に情（なさけ）の皿が一つ」

「左右2：1で皿が釣合っている」

人は身体を挟んで「義」「理」と「情」の間を行ったり来たりして釣合いを取っている。

しかし「情」は其れ一つで「義」「理」二つに匹敵する程重い。

だから彼らは家族や友人の危急に接して故国に戻って行った。

自分のカリー道の師匠夫妻も当店の従業員も元はネパールからの難民です。

しかし彼らは皆、我々今の日本人が失ってしまったものを持ち続けているとても立派な人達だと思っております。